

# 令和8年度 学校経営要綱

## 1 福島中学校区学校教育目標(9年間を見通した学校教育目標)

自らの考えをもち、共に学び合い、心豊かにたくましく未来を切り拓く児童生徒の育成

### (1) 教育目標に込めた意味・内容

福島中学校区の子どもたちのよさを最大限に生かし、明るい未来の創造に向けて課題を解決していきけるように、「自らの将来をしっかりと見つめ、大いなる志(目標)を持って、その達成に向けて少しずつ、しかし着実に努力を重ねていくことができる児童生徒の育成を9年間で行っていきたい。」という明確な目標とビジョンを共有するべく、この学校教育目標を設定した。そして、小中一貫教育という「縦の絆」と家族や仲間そして地域の方々といった「横の絆」との中核にいる一人ひとりの児童生徒と今後もまっすぐに向き合い、ともに学びを続けていきたい。

### (2) 教育目標設定の基盤

- 日本国憲法、教育基本法、学校教育法その他の関係諸法規の精神を尊重し、福岡県教育委員会、南筑後教育事務所及び八女市教育委員会の教育施策重点目標に示された事項に立脚する。
- 学校は「人間形成の場」と捉え、目の前の子どもたちの実態や社会の実態・変動等を鑑み子どもたちが現在及び未来をたくましく生きぬくことができる総合的な人間力を備えることができる教育活動の創造を行う。
- 「福岡県学校教育振興プラン」に基づき、地域の伝統や文化を大切にしながら、学校・家庭・地域が一体となった教育活動の推進を行う。

### (3) 9年間でめざす児童生徒像

- 目的意識・見通しをもって学習に取り組む児童生徒
- 自他の良さや違いを認め合い、支え合うことができる児童生徒

## 2 本校教育がめざす姿

めざす子ども像	【知育】 切磋琢磨し、自ら学ぶ意欲と知性を身につけた子ども 【徳育】 規則を尊重し、自他ともに大切にできる子ども 【体育】 目標をもち、ねばり強く体力づくりに取り組む子ども
めざす学校像	○ 学ぶ楽しさを味わえる学校 ○ あいさつや笑顔があふれる学校 ○ 保護者や地域と連携・協働し、地域に根ざす学校
めざす教師像	○ 厳しさと優しさをもった指導力のある教師 ○ 教育のプロとして自らを磨き、常に前進する教師 ○ 社会性を持ち、子どもや保護者・地域から信頼される教師
めざす地域像	○ 「自然と歴史と人々が共生し、笑顔とふれあいあふれるまちづくり」 ○ 小中一貫教育及びコミュニティー・スクールや地域学校協働活動による地域と一体となった教育活動の推進 ○ 相撲や伝統行事を通しての子ども育成

## 3 学校経営の理念

- 地域の大樹であり、地域づくり・人づくりの中核である学校  
・「地域と一体となった学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」の実現
- 率先垂範・師弟同行の学校  
・子どもに求めることは、すべて自らしてみせる、一緒に行く。
- 児童と職員がウェルビーイングのために自らを磨く学校  
・本物(人・もの・こと)との出会いで人は大きく成長する。
- 「子ども本位」の指導によって「令和の日本型学校教育」を具現化する学校  
・「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

#### 4 学校経営の基本方針

- (1) 学校・家庭・地域が連携・協働し、地域の特性を生かした教育により、ふるさとを愛し、公教育の立場に立ち、校長を中心とした調和と統一のある学校経営に務めると共に、職員の主体性・結果責任・同僚生を発揮した効果的な学校経営を行う。
- (2) 学校・家庭・地域が連携・協働し、地域の特性を生かした教育により、ふるさとを愛し、自らの人生を舵取りする力と民主的な社会の創り手となる人材の育成を図る。
- (3) 主体的・対話的で深い学びによって必要な資質・能力を育成し、「令和の日本型学校教育」の具現化及び児童と教員のウェルビーイングの実現を図る。
- (4) PDCAサイクルを確実に回し、継続的な評価改善に努めることによって、全職員で学校教育目標、中期重点目標、年度の重点目標の達成を目指す。

#### 5 児童の実態

##### (1) 知育の面から

○ R7全国学力・学習状況調査及び県学力調査の教科の結果は以下の通りである。

	県学力調査 (R7 第5学年)		全国学力状況調査 (R7 第6学年)	
	標準化得点 (県: 100)	C・D層の割合	標準化得点 (全国: 100)	C・D層の割合
国語	94.2	53.1%	94.3	54%
算数	96.7	49%	87.9	63.5%
理科			105.0	50.7%

R7全国学力・学習状況調査では、国語科においては、全国平均正答率と比べ、「知識・技能」のうち「情報の扱い方」の内容が「-9.1」、また「読むこと」についてが「-4.7」となっており課題である。資質・能力としては、「思考力・判断力・表現力等」が「-3.5」となっている。算数科において「測定」の領域が全国平均正答率と比べ「-12.7」と差が大きかった。また、「思考力・表現力・判断力等」の資質・能力が全国と比べ「-9.5」となっており課題である。理科に関しては、全体及び2観点とも全国平均正答率を上回った。また、R7福岡県学力調査では、国語科の「思考力・判断力・表現力等」が全国平均正答率と比べ、「-6.2」、算数科では「-2.5」となっており、課題である。

東書標準学力調査 (R7) は、以下の結果であった。※全国平均正答率との比較

	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年
国語	104.5	97.4	101.6	107.5	107.6	96.6
社会			99.1	97.6	90.0	89.0
算数	108.9	97.5	94.8	109.0	112.8	99.7
理科			100.8	109.0	112.8	99.7

本校においては、C・D層の割合の大きさから、個人差が拡大していること、「思考力・判断力・表現力等」の育成が不十分なことが課題となっている。

要因は以下のことだととらえている。

- ・主体的に学ぶ姿勢が十分育っておらず、受け身の姿勢で学習しているため、追究意欲が低い。
- ・明確な問題意識をもておらず、解決の見通しをもったり、ねばり強く解決のための努力をしたりすることが不十分である。
- ・問題に対して理由のある自分の考えをもち、工夫して相手に伝えたり、他者の考えを聞いて考えを見直したりして、より確かな考えにすることが十分できていない。
- ・前学年までに学習した内容が身につけておらず、新たな内容についていけない児童がいる。

##### ○ 非認知的能力に関して

[R7全国学力・学習状況調査児童質問紙の結果]

- ・質問項目「5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していましたか。」について、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」の割合が全国と比較して20%以上低く、課題であった。
- ・「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する

などの学習活動に取り組んでいますか」について、「当てはまる」、「どちらかといえば当てはまる」の割合が全国と比較して10%以上低く、課題であった。

〔R7学びに向かう力・人間性等(非認知的能力)に関する調査 ※八女市教育委員会〕

- ・「質問⑦ 授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していますか。」について本校は、「どちらかといえば発表していない」、「発表していない」、「考えを発表する機会はなかった」の合計が1回目：38.4%、2回目：47.8%）となっており、工夫して発表することが昨年度から引き続き課題となっている。

## (2) 徳育の面から

令和7年度は、特に生活指導として挨拶指導に力を入れた。その結果、挨拶の大切さを理解し、率先して挨拶をしようとする意識が芽生え、心の向上につながった。また、「いじめ防止」の視点から道徳教育を充実させたことで暴力・暴言などのいじめ案件が減少した。

しかし、身の回りの整理整頓、廊下の通り方や靴、トイレのスリッパ並べなど生活環境を整えることに課題が見られる。これは、頭では理解できていても日常生活の中では意識して実践できていない児童が多いことが原因だと考えられる。よって、今年度は生活指導の中で「生活を整えること」を重点的に指導し、さらなる心の向上を図る。また、ここ数年、不登校・不登校兆候の児童が増加傾向にあり、大きな課題となっている。集団生活になじめない児童がいることも要因の一つである。よって、個を大事にし、相手の気持ちを理解して協力し合ったり、助け合ったりする心情を育てていく必要がある。

## (3) 体育の面から

令和7年度の新体カテストで県及び全国平均を3つの学年以上で下回ったのは、以下の種目である。全体として「筋力」「柔軟性」に課題があると言える。また、同テストの5段階評価において、全学年の平均でD判定が21%、E判定13%と多く、個に応じた体力向上策がとることが課題である。

男子		女子	
握力	1年、5年、6年	握力	1年、2年、4年、5年、6年
長座体前屈	4年、5年、6年	反復横とび	1年、2年、4年、5年、6年

## 6 本校の教育課題と経営課題

### (1) 教育課題

- ◎ 児童のウェルビーイングのために、非認知的能力（学びを調整する力等）を高め、自分から進んで問題に取り組む意欲を持つことができるようにすること
- 学習問題や生活上の問題を解決するために、問題を見つけ解決する力や「思考力・判断力・表現力等」の資質・能力を高めること
- 不登校・不登校兆候の児童数を減らしたり、出席率を高めたりするために、「学校が楽しい」「学校に行きたい」と思える学習環境・生活環境をつくること
- 各学力調査におけるC・D層の児童に対して個に応じた指導を行い、基礎的・基本的な学習内容を確実に定着させること

### (2) 経営課題

職員のウェルビーイングのための

- 指導力の向上と効果や達成感の自覚化
- 校務の協働化と同僚性及び企画機能の向上
- 家庭・地域の共通理解と連携・協働による取組の充実
- 「働き方改革」の更なる推進

## 7 重点目標

### (1) 中期重点目標

#### 「課題を追究し続ける子ども」の育成

- 課題を追究するために、目標やめあてを持つことができる。
- 課題解決の見通しや計画を立てることができる。
- 目標の達成やめあての解決のために考えをしっかりとち、友だちと協働して、ねばり強く取り組むことができる。
- 解決結果や過程を振り返り、新たな課題や目標、めあてを持つことができる。

### (2) 本年度の重点目標

#### 「自分から進んで問題に取り組む子ども ～パワフル 峰の子～」の育成

##### 「パワフル 峰の子」とは

- 自分から進んで問題に取り組む子どもの姿を一言で示す言葉（合い言葉）
- 問題の解決へ向けて、粘り強く、自分から果敢に挑戦する力強さ、活力を示す言葉

「自分から進んで」とは	・意欲や知的好奇心をもつこと ・自分で考えること ・自分で決めること ・自分で選ぶこと ・自信をもって表現すること
「問題」とは	・よりよいものを求める気持ちや追究したいという気持ちから生まれる解決すべき（解決したい）事柄 ※ 「課題」と同義とするが、子どもが意識しやすいように「問題」という言葉を使用する。
「問題に取り組む」とは	・問題に気づき、めあてや目標をつくること ・問題を解決するためのめあてや目標に対する考えをつくること ・問題を解決するために実行・実践、試行錯誤すること ・問題を解決するために対話したり、協働したりすること

##### 【めざす子どもの姿】

〔知育〕 **進んで問題について考え、自信をもって伝える子ども**

→ 学力向上プラン、主題研究、児童が学期ごとにつくるめあてに反映させる。

〔徳育〕 **進んで生活を整える子ども**

→ 心の向上プランに反映させる。

→ 道徳科の重点内容に反映させる。

→ 特別活動（学活、児童会活動等）に反映させる。

〔体育〕 **進んで体を動かして体力づくりをする子ども**

→ 体力向上プランに反映させる。

##### ○ 重点目標の設定にあたって

令和7年度は、非認知的能力の要素である「学びを調整する力（メタ認知等）」や「協調性」を高めることに力を入れ、一定の成果を得た。本年度はその上に立ち、主体性を育てることに重きを置く目標を設定した。このことは、教育課題の解決や中期重点目標及び福島中学校区学校教育目標の達成、ひいては児童のウェルビーイングの実現につながる。

### (3) 重点目標の達成を見取る方法と目標値

- 重点目標に係る児童・教職員・保護者アンケート : 四件法で平均3.1以上

#### 〈評価項目〉

- 1 進んで問題について考え、自信をもって伝える子ども  
〔評価項目①〕 進んで問題を見つけ、問題に対する自分の考えをつくることができたか。  
〔評価項目②〕 自信をもって自分の考えを伝えることができたか。
- 2 進んで学校生活を整える子ども  
〔評価項目①〕 進んで整理整頓、廊下の正しい歩き方、靴・トイレのスリッパ並べができたか。  
〔評価項目②〕 友達のことを思いやり、協力したり、助けたりすることができたか。
- 3 進んで体を動かして体力づくりをする子ども  
〔評価項目①〕 進んで運動に取り組んだか。  
〔評価項目②〕 自分の体力を高めることができたか。

- 単元末テスト : 70点以上の児童が8割以上
- 標準学力テスト : 標準スコア前年度 over、または 50over の割合8割以上  
: 全学年・全教科の正答率が全国平均以上
- 全国学力・学習状況調査(第6学年)、県学力調査(第5学年)  
: 全学年・全教科の正答率が全国・県平均以上
- 体力テスト、体育に関するアンケート : 体力テストが全国平均以上  
: 体力向上プランの指標の達成

## 8 重点目標達成のための方策

### (1) 学力向上

- 学力向上プランの策定
  - ・授業づくりの取組 → 重点目標に係る共通実践事項の明確化と短期での評価
  - ・学習基盤づくりの取組 → 「福島中学校区スタディ7」の徹底と自主的な家庭学習の充実
- 重点教科及び重点的に育成する資質・能力の設定
  - ・重点教科: 国語科(「思考力・判断力・表現力等」の育成に重点を置く。)
  - ・重点教科に係る主題研究の充実(国語科で培った言語能力を他教科等に生かす)

### (2) 心の向上

- 心の向上プランの策定 【ステージごとの3つの取組】
- 道徳科における2つの重点内容の設定
  - ・重点目標に係る重点内容 . . . 全学年「節度、節制」
  - ・いじめ防止の観点の重点内容 . . . 全学年「友情、信頼」
- 生活指導の重点の共通理解と徹底
  - ・生活を整えること(整理整頓、正しい廊下の通り方、靴・スリッパ並べ)を自分から進んで行うことができるようにする指導・評価の仕方の工夫と全学級での徹底

### (3) 体力向上

- 体力向上プランの策定 【一校一取組の運動名「進んで体力づくりをしよう!」の取組】
  - ・体力テスト結果からみた課題(「筋力」「柔軟性」「跳躍力」の向上)の克服のための継続的な取組

- (4) 自分から進んで問題に取り組む総合的な学習の時間の実施
  - 自分の学習問題を設定し、自分の表現を大切に質の高い探求的な学習の充実
  - 「ハ女ふる里学」やGTとの交流、体験的な活動を通じた地域に愛着を持たせる学習の充実
  - 全学年での計画的なプログラミング学習・情報モラル学習、効果的な他教科等との関連指導
- (5) 自分から進んで問題に取り組む特別活動の実施
  - 学級活動と児童会活動の充実
    - ・自分自身、学級、学校の問題の発見と解決の仕方、話し合いによる折り合いのつけさせ方の指導
- (6) 自分から進んで問題に取り組む情報教育の実施
  - 問題に対する自分の考え・表現を高めるために情報やタブレット端末を活用する学習の充実
  - 電子黒板、デジタル教科書、タブレット端末(特にローマ字入力指導の強化)等の有効活用
  - ICT指導員を活用した、情報活用能力を高める学習及び情報モラルを身につけさせる学習の充実

## 9 本年度の経営の重点

- (1) 指導力を向上させ、効果や達成感を自覚できるようにするために

生徒指導の実践上の視点に沿った学級経営と学習指導(授業改善)、いじめ・不登校対策に係る共通実践事項を設定し、「取組→評価」を確実にを行い、効果を目に見える形にする。

### 学級経営の共通実践事項

- 児童の主体的な活動(学習や生活、家庭学習等)を重視した取組を行う。
- 自分の生活や集団生活を整えるための指導を徹底する。
- 生徒指導の実践上の4つの視点のうち「共感的な人間関係の育成」に重点を置く。

### 学習指導(授業改善)の共通実践事項

- 重点的に高める指導力を設定し、そのための主題研究を充実させる。
  - ・自分から進んで問題に取り組ませるための手立ての工夫
  - ・研修部を中心に協議を十分行った上で重点教科の国語科及びその他の教科等における共通実践事項を明確にした研究授業を実施する。
- タブレット端末を計画的・継続的に有効活用する。(週3回以上の活用)
- 生徒指導の実践上の4つの視点のうち「自己決定の場の提供」に重点を置く。

### いじめ・不登校対策の効果を上げるための共通実践事項

- 職員一人一人の人権感覚を高め、いじめと不登校対策の基本方針に基づいたSC、SSW、関係団体と連携した取組を全職員の共通理解のもとに計画的・継続的に行う。
- 本校の大きな課題となっている不登校対策に関して、不登校・不登校兆候児童数を減らし、該当児童の出席率を上げる取組を積極的に行う。
- 生徒指導の実践上の4つの視点のうち「自己存在感の感受」「安心・安全な風土の醸成」に重点を置く。

- (2) 校務の協働化と同僚性及び企画機能の向上のために、

職員一人一人の参画意識(役割と責任)の向上を図り、活動目標に沿って同僚性や企画機能を発揮する組織運営を行う。

【同僚性や企画機能を促す運営委員会の開催】

- 行事確認や報告だけでなく、学校の課題解決の見通しをもつための協議を行う。

【部長を中心とした「3部1プロジェクト」による機能的な組織運営】

- 学力向上部（学年代表からの構成）・・・〔定期的な組織活動〕
  - ・基礎学力向上部・・・基礎学力を高めるための取組の実施
  - ・授業改善部・・・授業改善を推進する取組の実施
- 心の向上部（学年代表からの構成）・・・〔定期的な組織活動〕
- 体力向上部（学年代表からの構成）・・・〔定期的な組織活動〕
- ICT活用プロジェクト（ICT担当者を中心とした学年代表者による組織活動）
- ※ 教頭と主幹教諭は、各部の取組や評価に対し適宜指導・助言を行い、改善を図る。

- (3) 学校・家庭・地域の共通理解と連携・協働による目標達成を目指した取組の充実のために、

福島中学校区における小中一貫教育の重点事項やコミュニティ・スクール等の意義や重要性、その内容を共通理解し、充実・促進を図る。

- (4) 「働き方改革」の更なる推進のために

校務の効率化を図るため、業務の優先順位に配慮しながら、従来の取組・やり方を見直したり、校務分掌の負担の偏りを減らしたり、ICT等を活用して職場環境の改善を行ったりする。年間の授業時数については、計画時のみならず随時できることを検討・工夫し、適正化を図る。

## 10 教育課程編成の基本方針

### (1) 通常学級における教育課程編成の基本方針

重点目標を達成するために、以下の方針で指導内容を選択・組織し、それに必要な授業時数を配当したり重点をはっきりさせたりすることによって、本校の特色ある教育課程を編成する。

- 学校教育目標及び今年度の重点目標「自分から進んで問題に取り組む子どもの育成」をめざし、問題を発見し解決する過程を重視しながら、学習指導要領に示されている内容を確実に実施するとともに、地域の「ひと・もの・こと」やICTを生かして多様な子ども達の深い学びを確かなものにする学習を実施する。
- 子ども一人一人の「好き（興味・関心）」を育み、「得意」を伸ばしながら、それらを原動力として学び全体への動機付けを図っていく取組を行う。
- 教科指導については、重点教科国語科を中心に言語活動を通して言語能力（読む話す・聞く、書く）を高めたり、子どもが選択する場面等を増やしたりし、思考力・判断力・表現力等を高める学習を充実させる。また、ICT（特にタブレット）の活用を促進し、情報活用能力の向上を図る。
- 道徳教育については、道徳科において重点目標に係る重点内容といじめ防止の観点からの重点内容を設定し、自らの生活や集団生活を改善することを考えさせるとともに、他者と共によりよく生きていくことができる子どもを育成する。
- 総合的な学習の時間では、ふるさとを愛する心情をもたせるために、地域の方々との交流などの体験的活動を重視したり、地域教材（特に「八女ふる里学」）を積極的に活用したりして期待感を高める学習内容となるように工夫する。ここでも、動機付けを重視し、子どもが選択する場面等を増やす。
- 特別活動においては、学級活動と児童会活動を重視し、問題を見つけることや、「折り合い」をつける話し合いの仕方を学ばせる。また、整理整頓、廊下の正しい歩き方、靴・トイレのスリッパ並べなどの生活を整えることへの指導に力を入れる。

- 教科等横断的な視点で各教科等を関連づけた学習内容を組み立て、カリキュラム・マネジメントを行う。PDCAサイクルのうち、特に「C→A」に重点をおく。

### (3) 特別支援学級における教育課程編成の基本方針

特別支援学級においては、児童一人一人の学習特性や実態に応じた個別の教育課程を編成することとする。その際、交流学級で指導した方が効果的な教科・内容等と特別支援学級で個別に指導した方が効果的な教科・内容を適切に判断し、編成する。

- 特別な教育的配慮のもと小学校に準じた教育を行うために、特別支援学校学習指導要領及び小学校学習指導要領を参考に、その子の実態に合った指導内容を抽出した独自の教育課程を編成する。
- 知的障がい特別支援学校の内容で学習を行う子どもには、日常生活の指導と生活単元学習を取り入れた教育課程を編成する。
- 子どもの障がいの特性に応じて自立活動を取り入れ、個々の特性から生じる困り感を改善・克服できるようにする。内容については、特別支援学校教育指導要領自立活動編を元に27項目の中から必要な内容を選択する。
- 子どもたち一人一人の教育的ニーズや保護者の願いをもとに、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、指導にあたる。
- 集団の中で友達と適切に関わる力を培うために、同学年の子どもとの日常的な交流をはじめ、子ども一人一人の実態に応じて異学年の子どもとの交流の場を設定する。